



幼時報

題字／栃木県知事 福田富一氏

第131号

平成29年12月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁舎西別館

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／伊沢 信恭 ●発行人／石嶋 勇

■栃幼連ホームページ <http://www.youchien.or.jp>



こどもが
まんなか
PROJECT

第24回

ピカピカの栃木県

平成二十九年十月十四日(土)～十二月四日(土)

今年も十月十四日から十一月四日までの期間に、第二十四回「ピカピカの栃木県（公共施設美化十万人運動）」が実施されました。

この活動は、栃木県幼稚園連合会と栃木県PTA連合会が、『家族のありかた』『環境』『公共心』について家族ぐるみで考えるために実施している活動で、毎年、公共施設などのゴミ拾いや空き缶拾い、草取り、落ち葉拾いなどを行い、身近な場所の環境美化を図る取組です。今年度より一週間延長し、三週間の期間で

行われました。

当園では、よく遊びに行く真岡市総合運動公園のこども広場に出かけました。こちらの公園は大型の遊具が整備され、園児たちやご家族に人気の遊び場になっています。普段使われているみなさんのマナーが良かったためか、当日はあまり目立ったゴミなどは落ちていませんでしたが、子どもたちは公園内を元気に走り回り、小さなゴミや落ち葉、小石などを集めていました。

毎年、この活動を実施したあと、

子どもたちは園庭の小石をすずんで拾うようになったり、散歩の途中でゴミを気にするようになったりします。「おうちの庭もきれいにしたんだよ」と言って、うれしそうに教えてくれる子もいます。後日、別の公園に園外保育に出かけた時も、遊具に目もくれず、ゴミ探しをしているグループもありました。

今回の活動で、県内各地の公共施設がピカピカになったことと思います。ご協力いただいた保護者のみなさま、先生方、そして主役の子どもたち、たくさんの方々のお力で栃木県がきれいになりました。この子どもたちが大人になり、やがて日本中が、ピカピカになる日がくることを信じています。

総務委員 細島 洋明
(認定こども園真岡ふたば幼稚園・いちごの杜保育園)

参加園

118園

参加人数

20,417名



園周辺の道路や寺久保公園のゴミ拾いを行った。綺麗になり園児も達成感を感じていた。

期日 十一月八日(水)
場所 幼稚園周辺・寺久保公園
参加人数 園児三十二名・保護者七名
教職員二名

芳賀地区
★ 萌丘幼稚園
★ 認定こども園



散歩道に落ちているゴミを丁寧に拾った。

期日 十月三十日(月)
場所 山王市宮住宅近隣歩道
参加人数 園児・教職員 百五十三名

★ 宇都宮地区
★ 山王認定こども園



いつも園外保育で遊びに行く公園をみんなでピカピカにしてみました。

期 日 十月二十七日(金)
場 所 城山公園
参加人数 園児・保護者・教職員 七十名

佐野地区
佐野たちばな幼稚園



市内有楽町公園に園外保育に出掛け、手分けしてゴミ拾いを行った。

期 日 十一月十三日(月)
場 所 市内有楽町公園
参加人数 年長組・教職員 八十名

足利地区
認定こども園
足利しらゆり幼稚園



かけっこ、屋外ランチ、たこ揚げ等、日頃から使わせていただいている緑地公園に感謝の気持ちを込めてゴミ拾いをしました。

期 日 十一月二日(木)
場 所 思川緑地公園
参加人数 園児 百三名 職員 十名

小山地区
はくおう幼稚園



いつも園外保育で利用する公園で、ゴミ拾いを実施しました。

期 日 十月二十六日(木)
場 所 大平運動公園
参加人数 園児・教職員 四十三名

栃木地区
アルス南幼稚園



幼稚園から滝見公園まで、ゴミ等を拾い集め、環境美化に努めました。

期 日 十月十九日(木)
場 所 幼稚園から滝見公園まで
参加人数 園児 十五人 保護者 十人 教職員 二人

日光地区
きぬ川幼稚園



地域の公園を清掃しました。教職員と一緒に草取りやゴミ拾いを行い、子どもたちはキレイになった公園を見て、清掃の楽しさと大切さを再確認しました。

期 日 十月十八日(水)
場 所 緑町児童公園
参加人数 園児・教職員 五十五名

鹿沼地区
鹿沼みどり幼稚園



野崎駅周辺と野崎公園を中心にゴミを拾った。心地よい汗をかき袋一杯にゴミを拾う。

期 日 十月三十一日(火)
場 所 野崎駅周辺と野崎公園
参加人数 園児・保護者・教職員 合計 百六十三名

那須地区
野崎幼稚園
認定こども園



台風で汚れた公園を親子で協力して清掃した。

期 日 十月二十八日(土)
場 所 水辺公園(道の駅)
参加人数 園児 五十二名 保護者 五十三名 小学生 三十二名 職員 十五名

塩谷地区
認定こども園
きつれ川幼稚園

研修会だより

資質向上研修

資質向上研修(三)

期日 平成二十九年八月二十九日(火)
会場 コンセーレ(大ホール)
参加 百二十七名

講師 宇都宮共和大学 教授 高柳 恭子氏

「幼稚園教育要領が目指すもの」

幼稚園教育要領の役割の一つは、公の性質を有する幼稚園における教育水準を全国的に確保し、一人一人の資質や能力を育みながら、小学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通すこと

「改正のポイント」

一、総則の改善・充実



幼稚園運営上の留意事項に「地域の自然、高齢者や異年齢の子どもなどを含む人材、行事や公共施設などの地域の資源を積極的に活用し、幼児が豊かな体験を得られるように工夫する」ほか、「幼稚園の幼児と小学校の児童との交流の機会を積極的に設けるようにするものとする。また、障害

のある幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むよう努めるものとする」と明記された。

二、ねらい及び内容の改善・充実(健康)

幼児が次の活動への期待や意欲を持つことができるよう、幼児の実態を踏まえながら、教師や他の幼児と共に遊びや生活の中で見通しをもったり、振り返ったりするよう工夫しながら次のことを改善充実する。

・食べ物への興味や関心を持ち、食の大切さに気づかせること
・多様な動きを経験する中で体の動きを調整するようにすること
・遊びを通して安全についての構えを身に付けること

(人間関係)

・身近な人と親しみ、係りを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼関係をもちつこと



・諦めずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもつて自分の力で行うことの充実感を味わうことができるようにすること
・自分のよさや特徴に気づくようにし、そして自信をもって行動すること

(環境)

・日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむこと

・文化や伝統に親しむ際には、正月や節句など我が国の伝統的な遊びに親しんだり、異なる文化を親しんだりすること
・自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したり工夫して遊ぶこと
・自分の考えをより良いものにするようとする気持ちが育つようにすること

(言葉)

言語に関する発達と思考力等の発達に関連していることを踏まえ、幼稚園生活全体を通して、幼児の発達を踏まえた言語環境を整え、言語活動の充実を図ることを留意しながら次のことを改善充実する

・言葉に対する感覚を豊かにする
・幼児が生活の中で、言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現に触れ、これらを使う楽しさを味わえるようにすること。その際に、絵本や物語に親しんだり、言葉遊びなどをしたりすることを通して言葉が豊かになるようにすること

(表現)

・豊かな感性を養う際に、風の音や雨の音、身近にある草や花の形や色など自然の中にある音、形、色などに気づくようにすること
・様々な素材や表現の仕方に親しむこと

三、教育課程に係る教育時間の終了後に行う教育活動などの留意事項に関する改善・充実

資質向上研修(四)

期日 平成二十九年十月二十五日(水)

会場 認定こども園すみれ幼稚園(矢板市)

参加 五十五名

内容 公開保育・グループ討議

会場であった認定こども園すみれ幼稚園は、園庭にある大きな藤棚と、その下のベンチに座るこども達の姿がとても印象的な幼稚園であった。

公開保育は、年少組は「木の实を使つてマラカス作り」、年中組は「葉っぱや木の实を使った構成遊び」年長組は「お店屋さんごっこ」の品物作り」を主活動として参加者は自由にそれらを見学させていただいた。参加者は、各自、各保育室で気が付いた点や感じ取った点を付箋紙にメモしながら備え付けボードに貼り付けていった。また、施設から保育まで参考になったことがたくさんあったようで、写真を撮る姿があらわにこちらで見られ満足そう。お昼には給食まで全員が美味しくいただいた。午後には三つグループに分かれ、教育研究委員指導のもと、付箋紙をもとにワークシートを貼ったボードをグループ形式で討議をし、各自の保育を振り返った。今回の研修により、参加者は明日からの保育にさらに弾みをつけそう。





設置者・園長研修会

設置者・園長研修会

期日 平成二十九年九月十二日(火)

会場 宇都宮グランドホテル

(平安の間)

参加 百九名

内容

「これからの人材採用・定着・育成に向けた取り組みと課題」子ども子育て支援新制度のゆくえは？」

講師

(学)マハヤナ学園理事長
マハヤナ幼稚園・ミルフィール
保育園園長 石田 明義氏

まず冒頭に、深刻な保育士・幼稚園教諭不足の現状について、平成二十七年四月にスタートした新制度により、現在、全国で約四〇〇園が認定こども園へ移行し、来年には約五〇〇園へ達するとの見方をされ、幼稚園と認定こども園での教職員



人員配置数が異なるため(幼稚園から認定こども園へ移行した場合、約一・六倍の人員が必要)更なる保育士・幼稚園教諭不足、争奪戦が激化するであろうとの見解を示された。

次に、園の安定的経営基盤の構築には、恒常的人員確保が不可欠であることから、各研究機関から発表されている保育士や幼稚園教諭の『離職率』『離職理由』『平均年収』等のデータを基に、教職員の採用・定着・育成に関する課題を示された。そしてその課題を踏まえ、運営及び働き方改革の必要性を指摘された。特に今後の幼稚園・認定こども園では、主体的な組織『人』が自ら動くマンパワーが重要であると強調された。近い将来、人工知能AIの普及により、人間の仕事が奪われてしまうのではと懸念される中、教育保育の仕事は、人が人を教える唯一の仕事であり、代替できない職種であるとし、米軍により開発された意思決定理論OODA(観察)→O(方向付け)→D(決定)→A(実行)を取り入れ、個人を育て、自ら動く組織の構築が必要であるとの考えを示された。



『多くの企業は優れた人材を抱えている。しかし最終的には、それを束ねる重力のようなものが必要である。』『即戦力になるような人材なんて存在しない。だから、育てるんだ。』有名な、ステイブ・ジョブズの名言で締められた。

少子高齢化の進展にともなう生産年齢人口減少から、人手不足は幼稚園・認定こども園業界に限定されたものではなく、日本社会が抱える重要課題である。そのような時期に、今回の研修は今後の人材の採用・定着・育成を考えさせられ、求められ

る組織変革において参考となる研修であった。

設置者・園長研修会

期日 平成二十九年十一月十六日(木)

会場 コンセーレ(アイリスホール)

参加 百六名

内容

「新制度施行後の状況と今後の園運営」制度の運用と幼児教育振興の課題」

講師

(有)遊育(株)保育システム
研究所代表取締役 吉田 正幸氏

平成二十七年四月にスタートした子ども子育て支援新制度を改めて振り返り、制度内容を再確認するとともに、新制度の理念を左記の三つの観点から説明された。

●基本理念

・すべての子ども・子育て家庭への支援

●仕組み上の理念

・すべての子どもの最善の利益の保障
・例外的ない保育保障、切れ目のない支援
・子どもや子育てにやさしいまちづくり

●政策上の理念

・施設中心から機能中心へ、供給主体から需要主体へ

そして平成二十八年の〇～5歳児のすべての子どもの数が、約六百四万人、そのうち一認定の利用児が約百五十五万人、二認定の利用児が約百四十八万人、三認定の利用児が、約九十八万人、それ以

外の〇～2歳児で一時預かり等、地域の子ども・子育て支援事業利用児を、独自に〇号認定と位置づけ、その利用児数は最多の約二百三万人と報告された。そのうえで、〇号認定の子ども子育て家庭を支援、サポートすることこそが幼児教育の質の向上に繋がると述べられた。

そして最後に、現在、政府で検討中の幼児教育無償化について、無償化と質の高い幼児教育はセットで考えるべき課題との見方を示し、無償化に伴う課題と問題点に触れ、研修会は終了した。



社会環境や就労形態の変化により子どもや子育て家庭を取り巻く環境も大きく変化し、求められる保育や教育、子育て支援

等も多様化している。子ども子育て支援新制度が施行されて、間もなく三年を迎えようとしている。今一度、新制度創設の趣旨を理解し、地域や行政と連携し、多様化するニーズに向き合い、妊娠期から子育て期にわたるまでの総合的な支援を目標として、地域に根差した子育て拠点としての役割、あり方を考える時期なのではないだろうか。



**第三十三回全日本私立幼稚園連合会
設置者・園長全国研修会****期日** 十月十六日(月)～十七日(火)**会場** 大分市・大分オアシスタワーホテル**参加** 約四百四十名
(うち栃木県連加盟園からは十一名)**メインテーマ** 「明日に向けて幼児教育の振興を
考える」**「一日目」****記念講演**『音楽と共に紡ぐ未来
こどもたちへ伝えたいこと』**講師** 伊藤 京子氏
(ピアノリスト・アルゲリッチ芸
術振興財団副理事長・他)**行政報告**『すべての子どもに質の高い幼児
教育を』**講師** 文科省初等中等教育局
幼児教育課長 先崎 卓歩氏**基調講演**

『事故現場には後悔しかない』

講師 (株)アイギス
代表取締役 脇 貴志氏**「二日目」****研究講座 (参加者が一講座選択)**『幼児教育の質
向上をめざした
カリキュラム・
マネジメント』**振興** 『今後の私立幼
稚園の振興をめ
ざして』**経営** 『事例から見る危機管理研修
「あなたの園は大丈夫ですか?」
認定こども園
「課題と見直しに向けて」』**第三十一回全日本私立幼稚園連合会
関東地区代表者協議会神奈川大会****期日** 平成二十九年
十一月九日～十日**会場** 横浜市 ホテル ニューブランド**参加** 関東地区会・神奈川地区会
加盟園から約四百四十名(栃
木県連加盟園から約四十名)**テーマ** 『これからの幼児教育に大切なも
のとは...』**研修Ⅰ** 『新要領と保育の質の向上』**講師** 国立教育政策研究所
幼児教育センター
総括研究官 堀越 紀香氏**研修Ⅱ** 『保護者からのクレームリス
ク・マネジメント』**講師** 学校リスクマネジメント
推進機構
代表 宮下 賢路氏**研修Ⅲ** 『私立幼稚園への支援状況』**担当** 各県私学・保育行政担当者**研修Ⅳ** 『日本の深海と有人潜水艦』**講師** 国立研究開発法人海洋研究
開発機構
広報部長 田代 省三氏**メモ** 新制度施行後三年目を迎え
た。移行園が増加し、併せて
無償化の議論が加速するなど、
社会の状況や制度が変革してい
く。そのような中、来年四月からは新
しい幼稚園教育要領が実施される。
私たちは、子ども達
の幸せな人生を見
据え、質の高い教
育を目指すなけれ
ばならない。この
度、関東地区会・
神奈川地区会加盟
の各県代表者が集
まり活発な意見交
換が行われた。**保育セオリー講座****第二回保育セオリー講座****期日** 平成二十九年十月三十日(月)**会場** コンセーレアイリスホール**参加** 百三十四名**内容** 『こどもの言葉の問題に
「気づく・支える・つなぐ」』**講師** ちぎりハピリステーションセンター
施設部通園療育課相談検査科 主査
佐藤 文字氏**メモ** 言葉の仕組
害について、
何が問題でどのよ
うに支援をするのか
学んだ。言葉の問題
として、①難聴、脳性麻痺、発声発
語器官の器質的障害が原因となる病
気や障害が明確な遅れの場合②発達
の遅れやアンバランスに伴う遅れと
して中度以上の精神発達遅滞、対人
関係あるいは、認知障害を伴う場合
③不良な言語環境に置かれたための
遅れ④発達の個人差と考えられる遅
れの傾向や特徴が挙げられる。これら
を抱えている子に対しての言語指導
は、一部を取り出した練習であり、
実際にコミュニケーションをする機
会が少なく、訓練だけでは不十分で
あるとの事である。訓練と合わせて
コミュニケーションを行うことが
大切であり、日常の全ての場面がコ
ミュニケーションの場(言葉を学ぶ
機会)となりえることを学んだ。**会場** コンセーレ (大ホール)**参加** 百二十七名
『保育者の育成と組織マネ
ジメント』**講師** 洗足こども短期大学
幼児教育保育科
准教授 井上 眞理子氏**メモ** 環境作りと組織のマネジメン
トについて学んだ。保育現場
における人材育成が難しい理
由として、保育を行いながら学ぶ
指導することの困難が挙げられる。
その中で保育経験豊かな職員が新人
の育成にあたり、素晴らしい保育実
践をすることで後輩を育てる力に
なってくる。人材育成を達成するた
めに組織のリーダーシップが必要に
なってくるが、大切なのは職員が能
動的に動けるようにサポートをする
ことである。権限者からの命令では
精神的苦痛を感じるようになってし
まうので、苦痛に感じないように普
段から職員からの信頼を得る必要が
ある。リーダーシップの定義として
①リーダーシップは仕事であり、組
織の命令や目標を明確に設定する。
優先順位や基準を
定め維持する。目
標を達成するため
に自らが率先し
て行動する。②部
下がした行動をサ
ポートしながら最
終的な責任を負
う。③『信頼』と
いう関係性の上に
リーダーシップは
成立する。
マネジメントの
本質として物事を
成し遂げる重要性
を学ぶことの出来
た研修であった。



平成30年度 予算要望書

団体名：一般社団法人栃木県幼稚園連合会
代表者名：理事長 石嶋 勇

要望事項等	継・新 の別	要望事項	
		現行	要望
【要望1】幼稚園運営費補助金・幼稚園教材費等補助金の増額 運営費補助金について国に準じて増額を確保するとともに、県単補助金については、茨城県(¥16,700、対比△11,900)や群馬県(¥16,638、対比△11,838)と肩を並べられるよう増額を要望します。 102条園対象の教材費等補助金について、地域の幼児教育の存続を図るために、増額を要望します。	継続	園児1人当たり 187,300円 国庫補助 23,453円 地方交付税159,000円 県単補助 4,800円	園児1人当たり 192,734円 国庫補助 23,734円 (予定額) 地方交付税159,000円 (予定額) 県単補助 10,000円
	継続	教材費等補助金 園児1人当 39,100円	教材費等補助金 園児1人当 50,000円
【要望2】新制度移行臨時助成費の継続と増額 新制度に移行した幼稚園・認定こども園の教育環境の整備充実をはかるための当該補助金について、平成30年度も継続していただくと共に、現状の「1号認定こども×2,400円」という単価を運営費補助金の県単補助4,800円へ増額されることを要望します。	継続	新制度移行園1号園児 1人当たり 2,400円	新制度移行園1号園児 1人当たり 4,800円
【要望3】子だくさん応援 多子世帯保育料免除事業費の創設 国に先んじた施策として、平成28年度に第3子保育料免除事業費が創設され、18歳未満の兄弟から数えて第3子以降の子どもの保育料の無償化が実現しました。要望3は、この第3子保育料免除事業費を「子だくさん応援 多子世帯保育料免除事業費」に発展させるという提案です。 現在、国において幼児教育の無償化に向けての準備が本格化していますが、それに先んじて、「18歳未満の子どもが3人以上いれば、就学前の施設に通う子どもが何番目の子どもであるかにかかわらず、保育料を無料にする」というものです。子だくさんの世帯を応援する全国的にも例を見ない事業であり、また少子化対策としても3人目を産もうという気持ちにさせる画期的な事業であります。どうか、国・他県に先んじた施策として発表し「子育てするなら栃木県」をアピールしていただくことを要望します。	新規 発展的 継続	第3子以降保育料免除	3人いれば保育料免除
【要望4】特別支援教育費補助金制度の見直しと増額 現行制度では、対象児が2人の場合は1,568,000円となりますが、1人の場合は392,000円と1/4になってしまいます。この補助額では教職員を加配して対象児に必要な教育的援助を行うことは不可能です。 国庫補助の対象とならない「対象児が1人の場合」「学立法以外の園の場合」であっても、県単補助による国庫補助と同額の補助金を要望します。 また、1号園児と同じ教育的援助を受ける2号園児に対しても、特別支援教育費補助金の対象としていただくことを要望します。	継続	・学法で2人以上在籍 1人当たり 784,000円 (国庫補助) ・それ以外 1人当たり 392,000円 (県単補助)	・学法で2人以上在籍 1人当たり 784,000円 (国庫補助) ・それ以外 1人当たり 784,000円 (県単補助)
	新規		・2号園児 392,000円 (県単補助)
【要望5】子育て支援事業等に対する補助金の充実 ①仕事と子育ての両立のために、預かり保育は大変重要です。幼稚園が行う預かり保育に対する一層の支援を要望します。 ②未就園児親子教室等の子育て支援活動を通じ、幼稚園が地域の子育ての拠点として機能を発揮できるよう、さらなる支援を要望します。 ③安心・安全な施設整備の観点から、園舎の耐震診断、耐震補強、等にかかる費用の助成を要望します。	継続	わんぱく保育推進事業	増額
	継続	子育てランド事業	増額
	継続	幼稚園耐震化事業費	増額
【要望6】「栃木県私学団体補助金」の継続と一本化	継続	栃幼連補助金 3,000千円 幼稚園特別研修費補助金 3,000千円	栃幼連補助金 6,000千円

●平成30年度予算要望書について

来年度に向け、上記の要望書を、11/24に自民党政策懇談会に、12/11に福田知事、小林議長（当日は若林副議長に対応いただいた）に提出させていただいた。

①運営費補助金については県単補助部分の増額を強く求めた。②新制度移行臨時助成費については継続と増額を、④特別支援教育費補助金については国庫補助対象外児に対する県の対応を求めた。⑤その他の子育て支援事業等への補助金については継続と増額を、⑥の栃幼連への研修費補助金についてはその一本化を求める内容とした。

③では昨年に引き続き、3人以上の子がいれば3人目以降だけでなく1人目も2人目も保育料無償にするという新制度を提案した。国の幼児教育無償化に先駆けて、「子だくさんを応援する栃木県」というメッセージを内外に示して欲しいと思う。

（振興委員長 馬場章信）





幼児教育センターだより



今後十年、二十年先の社会を見据えた教育要領等の改訂に伴う説明会等を幅広く実施しています！

御存知のとおり、平成二十九年三月に、新しい「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領」が告示されました。各幼稚園やこども園では、平成三十年度からの全面実施に向けて、園の教育課程や指導計画の見直し、改善の作業が進められているところではないでしょうか。

今回の改訂の背景や趣旨は何か、柱となることは何か、具体的に何が変わるのか等、新しい教育の方向性をより多くの先生方に理解していただくために、説明会を四回、特別講座を二回、計六回、周知の機会を設けました。

実施日や会場、参加対象を変えることで、各園から、様々な立場の先生方が、適所に参加して下さっています。

参加された先生方が得た情報を組み合わせると、今回の改訂の全容がパズルのように浮かんでくると思いますが、是非、今後、十年、二十年先の社会を見据えた教育課程の改善やカリキュラム・マネジメントに生かしてください。



県南

★主任等対象
10月18日(水)
足利市民会館
松蔭大学
学科長 山下 文一

教材の工夫
教材研究



県北

★主任等対象
10月12日(木)
塩谷庁舎
幼児教育センター
顧問 神長美津子

カリキュラム・
マネジメント



県央

★主任等対象
10月11日(水)
県総合教育センター
松蔭大学
学科長 山下 文一

幼児期の終わりまでに
育ってほしい姿



地区説明会

★管理職対象
9月27日(水)
県総合教育センター
文部科学省 視学官
湯川 秀樹

幼小中高を貫く
3つの資質・能力

中央説明会

社会に開かれた
教育課程

発表一

提案

《幼小連携部会》
テーマ「新しい要領・指針等に見る幼小の接続」
「幼小のジョイントカリキュラムを考える」

新しい要領・指針等に見る幼小の接続について
幼小連携を意識した自己表現力の育成

平成三十年一月二十七日(土)
九時三十分～十二時

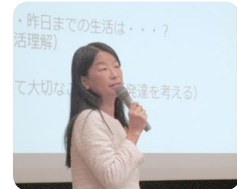
総合教育センターからのお知らせ
○平成二十九年年度
栃木県教育研究発表大会



★教職員対象
12月18日(月)
県総合教育センター
幼児教育センター
顧問 神長美津子

幼稚園・保育所・
こども園のつながり

幼児教育特別講座Ⅱ



★管理職対象
11月1日(水)
県総合教育センター
大阪総合保育大学
学部長 大方 美香

大人社会の変化
子どもの生活の変化

幼児教育特別講座Ⅰ

全体的な計画
の作成

★幼児教育センター研修案内より、
お申し込みください！

白梅学園大学大学院

無藤 隆 特任教授

講話「幼小のカリキュラムの
接続」
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とスタートカリキュラムのつながり

●トップセミナー

講話・演習「発達と学びをつなぐ
要録の作成と活用」
中央区立京橋朝海幼稚園
箕輪 恵美 園長

講話「要録の意義と役割」

二月二日(金)

●スキルアップセミナーⅡ
「要録の作成と活用」

これからの研修

★栃木県総合教育センターのホームページより、お申し込みください！

★発表一 幼児期から児童期の「話す・聞く力」を育むために

発表二 まかせ 見守り 育つ思考力

発表三 幼小連携推進者養成研修の受講修了者(幼と小のペア三組)

に、接続期のカリキュラムに基づいた取組を発表してもらいます。発表三は、香電幼稚園の小沼洋子教諭が発表します。

★栃木県総合教育センターのホームページより、お申し込みください！



こども政策課だより

一月始業日現在の園児数調べの実施について

運営費補助金及び教材費等補助金の変更交付に当たり、一月初旬に、一月の始業日現在における在園児数等を御報告いただきます。詳細については、別途文書でお知らせします。期限内の提出をお願いいたします。

運営費補助金及び教材費等補助金に係る変更交付申請書の提出について

本年度に入園した満三歳児分等の一般補助や特別支援教育と地域子育て推進事業の特別補助に係る変更交付申請書（新制度移行園は交付申請書）については、運営費補助金、教材費等補助金ともに一月下旬に御提出いただく予定です。詳細については、別途文書でお知らせします。期限内の提出をお願いいたします。

子育てランド事業に係る実施記録について

子育てランド事業を実施している園においては、各実施事業の参加人数や活動内容等の記録を実施報告書提出時に添付していただきますので、必ず記録を取っていただくようお願いいたします。

数や活動内容等の記録を実施報告書提出時に添付していただきますので、必ず記録を取っていただくようお願いいたします。

運営費補助金における処遇改善加算の実施について

幼稚園教諭の人材確保のため、今年度、通常のベースアップを超える処遇改善を実施した私学助成園に対し助成を行います。詳細については別途文書でお知らせします。

園舎の耐震化の促進について

東日本大震災以降、園舎の耐震診断の実施・耐震化がより一層求められています。

本県の私立幼稚園の耐震化率は、平成二十九年四月一日現在で八十五・三％ですが、全国平均八十八・四％と比べ、依然低い数値となっています。

平成三十年度においても引き続き、国庫補助制度の活用による耐震化を促進したいと考えておりますので、耐震化（建替・補強等）を予定する場合は、市町の担当課も含めて早めに御相談くださいますようお願いいたします。

今後とも、園舎の耐震化に取り組んでいただき、安全・安心な教育環境の整備をお願いいたします。

平成三十年

一月～三月までの事業予定

1月5日	※中堅幼稚園教諭等資質向上研修
1月12日	※幼稚園教職5年目研修
1月19日	※幼稚園教職5年目研修
1月26日	※幼小連携推進者養成研修
1月27日	※平成29年度栃木県教育研究発表大会
2月2日	※01・2歳児研修
2月2日	※スキルアップセミナーⅡ
2月8日	※幼小連携推進者養成研修
2月9日	※トップセミナー
2月16日	※設置者・園長研修会
	※は幼児教育センター事業

平成三十年度 主な事業計画

5月17日	栃幼連 通常総会
7月5日	栃幼PTA連 総会
7月7日	就職説明会
7月31日	第65回 栃木県幼稚園教育研究大会
8月1日	第33回 全日私幼関東地区教研会千葉
8月21日	全日私幼 第34回 設置者・園長
10月22日	研修全国大会（栃木）
10月26日	栃幼PTA連 振興の集い（野木町・野木町文化会館）
11月6日	全日私幼関東地区代表者協議会群馬

慶事

●塩谷地区 十月二十五日
かしわ幼稚園創立四十周年記念式典

計報

●足利市 認定こども園
園長 足利しらゆり幼稚園
園長 一ノ瀬 孝文 先生
平成二十九年十一月十八日 逝去
●栃木市 認定こども園ひらかわ幼稚園
元理事長 関口 清 先生
平成二十九年十二月十一日 逝去
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

早いもので平成二十九年も残すところ、あとわずかとなった。子どもたちはクリスマスに向けて心を躍らせている。この時期になると今年はどんな年だったか、を思い返すことが多くなるのではないだろうか。とりわけ今年には九州北部豪雨を始め、天候による被害や、Jアラートが発令されるなど、日々の生活の中で安全とは何かを考えさせられる出来事が数多く起きた年であった。子どもたちの命を預かる我々は何が出来るのか。今まで想定してきた災害とは状況が変わってきている中で、どのようにして危険に対処すべきかを改めて考えさせられる一年であったのではないだろうか。クリスマスに限らず、いつもどんな事にもワクワクしている子どもたち。そんな日々の生活「当たり前」の日常」を守っていくと共に、日々平穏に過ごす事のありがたさを感じた今日この頃である。

最後に「幼児教育無償化」がいよいよ本格的に進みそうな気配を見せている。子育て世代の働きやすい環境作りが進む中、認定こども園、小規模保育園、企業主導型保育園等と様々な動きがあり、変わりゆく状況の中で保護者や地域から求められているものは何なのか。私自身、微力ではあるが、それらを受け入れながら理念や信念をもって栃木県幼稚園連合会の一員として、今後とも取り組んで参りたい。（橋本 慎平）